

会長就任のご挨拶



公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 神山清志

会員、賛助会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より当会の運営・活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、当会の役員改選に伴い、6月12日に開催されました令和2年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会におきまして22名の理事が会員の承認を受けて選任され、引き続き行われました理事会にて、私 神山清志が会長（代表理事）をもう1期務めさせて頂くことになりました。謹んでご報告申し上げます。

当会は、昭和28年に埼玉県細菌・病理試験技術者会として発足し、昭和60年に特例民法法人である社団法人埼玉県臨床衛生検査技師会となり、平成26年1月に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会へと変遷しています。その間、17名の会長のリーダーシップのもとで会が健全に成長し続けていることは諸先輩方の努力の賜であることと敬服いたしております。

現在の医療の中で臨床検査は必要不可欠なものであり、精度の高い検査結果は疾病の予防、診断、治療へと大きく貢献しています。しかし、その臨床検査を生業とする臨床検査技師の名は一般的に知られておらず、ある種のマイナーな資格であると言われても否定ができない現状もあります。私たち埼臨技役員は丸となり会員の学術・技術の向上、検査値を客観的に保証する精度管理事業の推進はもちろんのこと、県民に臨床検査の必要性和、臨床検査技師という職種を知っていただくよう、行政等が実施する健康展への協力や埼臨技学会の市民公開講演等を積極的に実施したいと考えております。

さて、新型コロナウイルス感染症といった誰も予想しなかった事態に世界全体が翻弄されております。私たち臨床検査技師は検査の専門家として正しい知識と技術をもってこの局面に対峙したいと考えます。そして、県民の皆様が安心して検査を受けられる体制づくりに関係省庁、関連団体と連携をとり対応してゆく所存です。

しかし、実際に直接見えないウイルスが相手であり、ウイルスの性質や感染のメカニズムが完全に解明されていないなか、私たちが行う研修会等の事業においてはどうしても、防御優先の対応をとらなくてはならない現実もあります。会員の皆様におかれましては、せっかく受講できるはずの研修会が延期や人数制限等となり、満足いただける会務が提供できない状況にもなっておりますが、事情をご勘案いただきお許しいただければと存じま

す。

会長二期目の船出は順風満帆とは言えませんが、会員、賛助会員、県民の皆様の期待にこたえられるような会務運営を役員一丸となり執り行う所存ですのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。